



FC琉球

FC琉球 県産品&子ども応援プロジェクト 1/2

FC琉球、イオン琉球、沖縄県の協働で、コロナ禍で影響を受けている県産品を活用した「琉球応援弁当」や「アスリートレシピ」を企画開発し、FC琉球とイオンのコンテンツやメディアを活用したプロモーション及びイオン店舗での「琉球応援弁当」の販売により、県産品の流通を促進した。また、「琉球応援弁当」の県内子供食堂への寄付(計5000食)を通じた選手と子供達との交流により、コロナ禍の影響を特に受ける困窮家庭の子供達への食糧支援と合わせ地元プロサッカー選手との交流を通し夢や目標を持つことでの自立支援も目指した。



活動場所

沖縄県内各所(本島・宮古島・石垣島)の子供食堂及びイオン店舗、タピック県絵ひやごんスタジアムなど



協働者

企業、NPO、行政

協働者名

イオン琉球株式会社、沖縄県商工労働部、おきなわこども未来ランチサポート(沖縄県委託事業)、東京バス株式会社



協働者の声

イオン琉球株式会社/島袋 理奈 氏



この取組みを通し地域の農家の方々や多くの子供達からたくさんの「ありがとう」の声を頂きました。また「地域にはまだまだ素晴らしい素材がたくさんある」ということにも気づかされました。これをきっかけに地域の産品を掘り起こし、県内外にその魅力を広げていく活動が一層加速し、社の大きな方針の一つになりました。



県産品活用、子ども支援

FC琉球とイオン 弁当販売、配布も

FC琉球県産品応援プロジェクト



FC琉球県産品応援プロジェクトを発表する小川淳史社長(右から2人目)ら関係者=5日(提供)

通促進と、
場にいる子
・自立支援
プロジェクト
産品応援フ
開始を発表
両社が県
らそれぞれ
ワークを活
水産物を使
弁当(税
を販売する
と幅広ク
展開する
プロジェクト
等活用公
る。期間は
弁当はおき
ランチサポ
月約700



活動詳細情報

- 1 [プロジェクト特設WEBサイト](#)
- 2 [クラブ公式リリース](#)
- 3 [タウン情報メディア記事](#)



カテゴリー(SDGs)/取り組みテーマ





FC琉球

FC琉球 県産品&子ども応援プロジェクト 2/2

Story

沖縄県はコロナ感染状況が全国でも突出しており、主要産業の観光業への打撃は当然のこと、観光立県として多くの産業が観光と結び付いているため特に農水産業への支援も必要であった。また、非正規雇用率及び子供貧困率が全国ワーストの沖縄県において特にコロナ禍が困窮家庭の子供達に追い打ちをかける状況であり、子供支援も急務であった。地元小売大手イオン琉球と連携し、沖縄県等から紹介を受けたコロナ禍の影響が大きい農水産品を使った琉球応援弁当を開発し、選手が農家や漁師を訪問し弁当を開発する過程やアスリートや子供の発育への県産品の有効性や活用レシピを地上波TV

県産食材をつかった
琉球応援弁当

琉球
応援弁当



番組やWEBで紹介することなどで県産品がコロナ禍による影響を受けている実情や県産品の魅力の発信、新たな需要掘り起こしを実現した。合わせてイオン店舗やスタジアムイベントで琉球応援弁当や紹介した県産品を販売することで直接的な流通促進にも寄与することができた。

また、困窮家庭の子供への支援として琉球応援弁当5000食を県内の子供食堂に寄付した。子供食堂との交流を通じコロナ禍により学校行事が無くなる中で特に困窮家庭の子供には食糧以外に社会的・文化的経験も不足している現状に気付き、本PJではバス会社の協力も得て215名の子供達をホームゲームに招待しJリーグ観戦しながら琉球応援弁当を食べる企画や選手と子供の県産品食育教室も実施し、地元プロサッカー選手との交流を通じ夢や目標を持つことでの自立支援も目指した。

なお、本PJは休眠預金等活用公募事業に採択され、弁当寄付費用等を拡充できた。

これらの一連の活動はクラブの発信力も活かし県内のTVニュース(3社)や新聞(4社)、WEBメディア等を通して広く周知された。



本PJに参加した企業、団体、自治体からは活動の継続を望まれており、農水生産者と子供達を繋ぎ同時に支援するチャレンプラットフォームとして定着させていきたい。